

あぎがわ
阿木川ダム、ナゴヤドーム約2.1杯分を貯留、
ダム下流の河川水位を最大約1.0m低減
～台風3号における阿木川ダム防災操作～

木曾川水系阿木川の阿木川ダム流域では、台風3号の影響により、7月4日14時頃から雨が降り始め、その後、17時及び20時には、時間雨量約32mmの激しい雨を記録しました。5日8時までの総雨量は、約102mm(ダム流域平均雨量)となっております。

今回の阿木川ダム防災操作により、5日8時の時点で、ナゴヤドーム約2.1杯分(約264万立方メートル)の水をダムに貯留しており、阿木川ダムがない場合と比べ、ダム下流の大門地点(恵那市長島町正家)で、河川水位を最大約1.0m低減させたと推定しています。

- * 防災操作とは、大雨などの際、ダムに流れ込む水の一部をダムに一時的に貯め込み、ダムから下流へ流す量を減らし、下流の川の水位を低減させる操作です。
- * 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。



平成29年 7月 5日

独立行政法人水資源機構 阿木川ダム管理所

発表記者クラブ

恵那記者クラブ、中津川記者クラブ
恵那市ケーブルテレビ

【問合せ先】

独立行政法人水資源機構 阿木川ダム管理所

所長代理 すぎやま
杉山

住所 岐阜県恵那市東野字花無山2201-79

電話 0573-25-5295(代表)

あぎがわ
阿木川ダム、ナゴヤドーム約2.1杯分を貯留、
ダム下流の河川水位を最大約1.0m低減

木曽川水系阿木川の阿木川ダム流域では、台風3号の影響により、7月4日14時頃から雨が降り始め、その後、17時及び20時には、時間雨量約32mmの激しい雨を記録しました。5日8時までの総雨量は、約102mm（ダム流域平均雨量）となっております。

この降雨により、4日19時12分に、ダム流入量は洪水量（毎秒120立方メートル）に達し、ダム流入量が最大（毎秒154.12立方メートル）となった同日19時34分時点では、ダム流入量の約99%を貯留しました。

阿木川ダム防災操作の概要

流域平均総雨量	ダムへの流入量が最大となった時刻	同時刻におけるダムへの流入量	同時刻におけるダム放流量	同時刻におけるダム貯留量
101.7mm	平成29年7月4日 19時34分	毎秒154.12m ³	毎秒1.79m ³	毎秒152.33m ³

阿木川ダムがない場合と比べ、ダム下流の河川水位は、大門地点^{だいもん}で約1.0m水位を低減し、阿木川ダム防災操作により、水防団待機水位を超過することを防げたものと推定しています。

大門地点の水位低減効果

大門地点の河川水位が最高水位となった時刻	同時刻における大門地点の河川水位	ダムがなかった場合の大門地点の最高水位	水位低減効果
平成29年7月4日 19時30分	1.13m	約2.15m	約1.02m

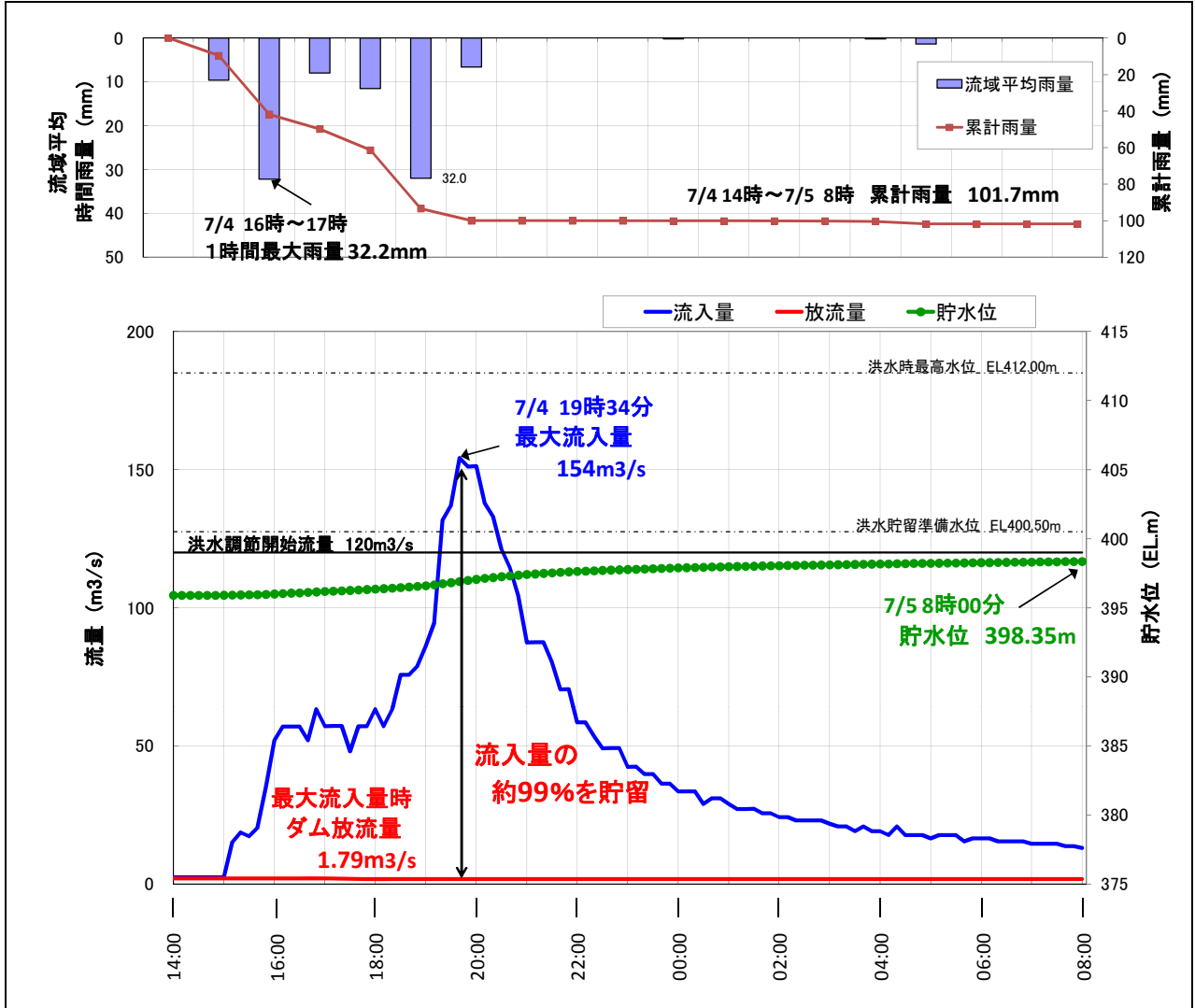
*大門地点：大門水位観測所（恵那市長島町正家）^{えなしおさしまちしょうしょうげ}地点

5月から6月にかけての木曽川流域の少雨傾向により、ダムから水の補給を実施し、ダムの貯水量が低下していました。このため、今回の阿木川ダム防災操作は、ダム放流量を下流河川の維持流量（毎秒1.79立方メートル）とし、流入量のほとんどをダムに貯め込む操作を実施しました。その結果、5日8時の時点で、ナゴヤドーム約2.1杯分（約264万立方メートル）の水をダムに貯留しました。

*維持流量：河川における流水の正常な機能を維持するために必要な流量

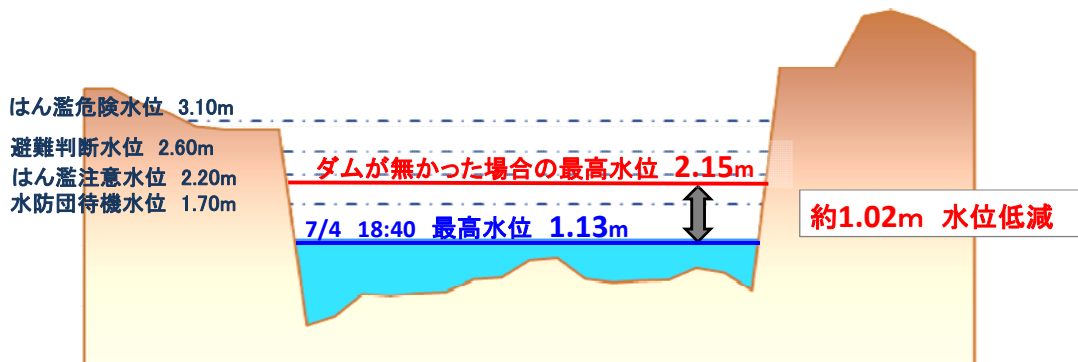
台風3号の降雨に伴う阿木川ダム防災操作について

阿木川ダム最大流入量時にダム流入量の約99%を貯留し、ダム下流の河川水位を低減



5月から6月にかけての木曾川流域の少雨傾向により、ダムから補給を実施し、ダムの貯水量が低下していたことから、今回の降雨では、ダム放流は下流河川の維持流量(毎秒1.79立法メートル)とし、流入量のほとんどを貯め込む防災操作を実施しました。

下流河川(大門地点) 水位状況

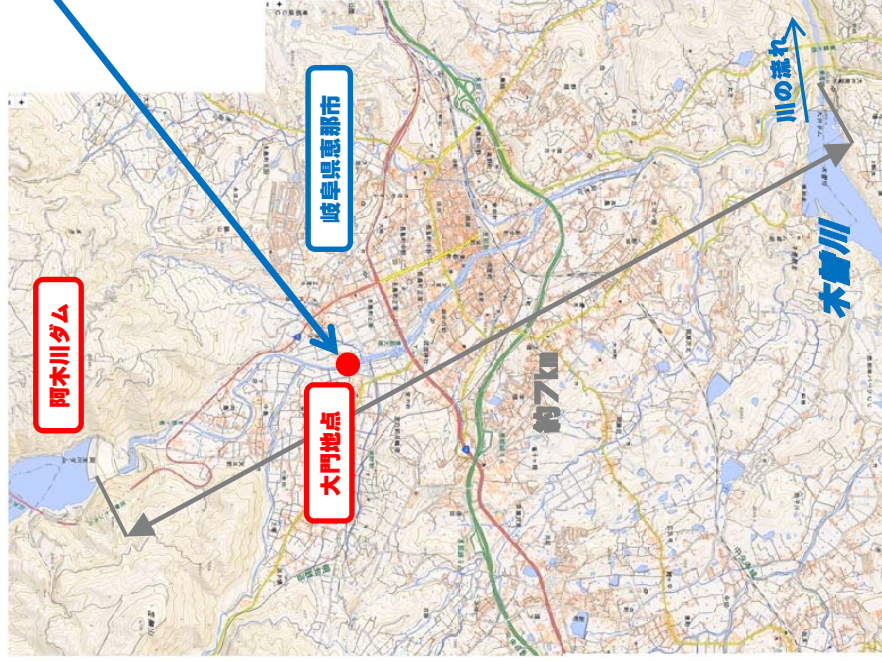


※ 今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。

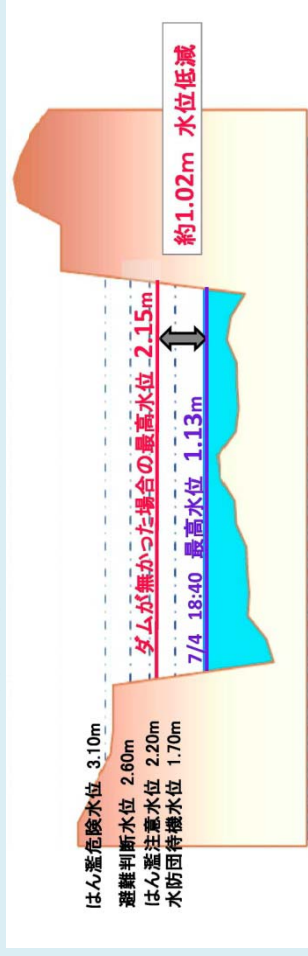
阿木川ダム最大流入時にダム流入量の約99%を貯留、大門地点の水位を約1.0m低減

■台風3号の影響により、木曽川水系阿木川の阿木川ダム流域では、1時間雨量で最大32mm、降り始めからの総雨量は102mmを観測しました。この降雨により、ダムへの最大流入量は毎秒154立方メートルを記録しました。

■阿木川ダムでは、最大流入時にダム流入量の約99%（毎秒152立方メートル）の水をダムに貯留し、名古屋ドーム約2.1杯分に相当する水（約264万立方メートル）をダムに貯め込みました。今回の防災操作により、ダム下流の大門地点（恵那市長島正家）の河川水位を最大約1.0メートル低減したものと想定されます。



大門地点（恵那市街地付近）での水位低減効果



最大流入時に約99%の水をダムに貯留し、名古屋ドーム※約2杯分に相当する水をダムに貯め込み、ダム下流の河川水位の低減に努めました。（※名古屋ドームの容量を125万 m^3 として算出）



（貯水位EL.395.85m付近:今回の出水前に撮影）



（貯水位EL.398.38m:平成29年7月5日8時頃撮影）

※今回の発表は速報値であり、今後の精査により数値等が変わることがあります。